

混沌とした中から

2005年の年頭に当たって

年頭に当たっては、「混沌とした中から」になっても変わりません。

今年はどうな年になるのか、予想は難しいところですが、身の回りからいえば、4月に「個人情報保護法」が施行になり、これまで以上にセキュリティというか、情報というものに対する考え方が変わってくるのではないかという気がします。一般的には、セキュリティについては大事なものだという考えはあると思うのですが、では実際それに対してどのような立場が取られているのでしょうか。例えば、コンピュータウイルスについても、昨年夏に「nimda」が大流行し、新聞にも取り上げられたりしましたが、普通の人の捉え方はといえば、やはり対岸の火事で、自分のところには来ることはない、会社のパソコンには来るだろうけれども個人のパソコンまでは来ない、こんなところまでくるはずがないというものではないのでしょうか。そのため、ウイルス対策ソフトがどれだけインストールされているとなった場合、まだまだ十分ではないというのが現実です。このぐらいのことは大丈夫というのがあまりに多いのではないのでしょうか。電車の中でパソコンを使う。書類を広げる。重要なデータをフロッピーに入れて鞆に入れて持ち帰る。などなど。やっている人にとっては危ないという意識はないのでしょうか、こんな危ないことはないのです。現実には、持ち帰ったパソコンを盗まれたり、壊れて使えなくなったからといって捨てたパソコンから情報が漏洩したり、画面を覗かれてその内容が競争相手の会社に伝わったり、事例はどれだけでもあげられます。しかし、このようなことをどれだけ説明しても自分自身のことと感してもらえないことがセキュリティ教育の難しいところであり、最も大事なところなのだと思います。これまでの日本の社会は「性善説」でありすぎたように思います。同じ会社の人間だから情報を漏らすことはない。同じ仕事をしているのだから大丈夫。そんなところまで細々と管理しなくてもいい。もうすでにそんな時代ではないのです。周りの人を疑ってかかれとまではいいませんが、万が一のことがあっても大丈夫なように対処しておく。運用で言葉が悪いですがごまかしていた部分をきちんと文書化して決めておく。わずらわしいからやらないといったことをなくす。規則でそこまで縛るかといわれるかもしれませんが、すべきことはきちんと決めておくといったことが大事になってきます。

情報についてはいろいろと便利になってきています。しかし、便利になる反面、危なくなることもあるということも意識の中に入れておく必要があります。裏にはリスクが必ずあります。技術者はえてして便利な部分を強調し、突っ走ろうとします。誰かが抑えなければ大変なことになります。自宅のパソコンに会社の大事なデータが入っていませんか。見積もりの明細書が裏紙として使われていませんか。会社の中は外の通りと大して変わらないということを考えたことがないではありませんか。何気なく飲み屋で会社のことを大声でしゃべったりしたことはありませんか。インターネットカフェで会社の仕事をしたことはありませんか。メールを送り間違えて相手会社の担当者に送ったことはありませんか。会社の端末で仕事以外の怪しいページを覗いたことはありませんか。

今年は、個人情報を中心に、セキュリティがこれまで以上に注目され、仕事の仕方も変わってくる、多少面倒になってくると考えられます。そういえば、依然集めた顧客情報を単なる代理店に情報として提供することも個人情報保護法違反になるようですのでご注意ください。

(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経バイト 1月号

特集 光の時代の明と暗

→90年代「光コンピュータ」が注目された時代があった。それまでの回路では性能に限界があるとして注目されたものであったが、その後のコンピュータの性能アップの陰で忘れ去られていた。しかし、CPUメモリ間、マザーボードHDD間などを光で繋ぐ「光コンピュータ」がまた注目されようとしている。ネットワークもギガビットから10ギガビットへと高速化し、記録もテラバイトを目指している。

○日経システム構築 1月号

特集 これからの開発技術

→開発がよりいっそう短期間を追求している。いかに「スピード重視」するか、実装工程ではコード量の削減を目指し、さらに設計モデルをコードに自動変換するといった動きがある。これからの開発はどう自動化を目指しているか。

○ASCII 1月号

特集 2005年大予測

→これは、私のではないちゃんとした2005年の大予測。CPU、マザーボード、ディスプレイ、ネットワークなど16項目に分けて大予測。CPU、OSが新しくなりよりいっそうの性能アップが想像される。大画面、大容量、高性能のパソコンがよりいっそうアップされる。

○NETWORK WORLD 2月号

特集 クライアントPCが危ない!

→ファイアウォールとウィルス対策ソフトによって守られていたクライアントPC。現在はこれだけでは守りきれない。スパム、フィッシング、スパイウェア、アドウェアが具体的なものであるが、それらの具体的手口を分析し、対策を解説。便利になってきた情報社会、いたるところに落とし穴があることを肝に銘じて対処していかなければならない。

○N+I NETWORK Guide 2月号

特集 セキュリティ情報の集中管理に挑む!

→セキュリティの重要性が認知されるに伴い、注目されてきたSIM (Security Information Management)。SIMはイベントログを効率かつ的確に収集し、相関分析してその攻撃タイプとその経路を明確にする。そのSIMの概念、仕組み、運用方法などと具体的な製品と、オープンソースで作るSIMを紹介する。